

2013年11月30日 生協総研賞表彰式 推薦者挨拶

日本医療福祉生協連 会員支援部部长 中島あきこ

西村一郎様、このたびは、「協同っていいかも? 南医療生協いのち輝くまちづくり50年」の第9回生協総研賞「特別賞」受賞、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。同書を出版された合同出版株式会社 代表取締役社長 上野良治様に、あわせてお祝いを申し上げます。表彰推薦をさせていただいた私どもと致しましても、本当に嬉しく思っております。医療福祉生協の実践を素晴らしい本にしてくださった西村さんと合同出版(株)の上野社長に、この場をお借りして感謝申し上げます。

特別賞を受賞された「協同っていいかも?」の舞台となりました南医療生協は、愛知県名古屋市にございます。西村さんは、数年にわたり現地に通い続け、丁寧な取材を重ねて、本にまとめてくださいました。

南医療生協の事業の最大の特徴は、「組合員がつくる」ことを徹底している点にあります。組合員が徹底して話し合い、自分たちの夢を事業プランにまとめ、その実現に必要な元手となる出資金はもちろん、医療・介護事業に不可欠な医師や看護師などの専門職を探し集めてくることまで、責任を持つ。つくった施設の運営はボランティアとして自分たちが支える。組合員参加を生協の組織運営のすべてに貫き通すことは、当たり前なのですが、実際には絶えることのない試行錯誤や自問自答を要する課題でもあると思います。

私が本書から強い印象を受けましたのは、組合員一人ひとりが、南医療生協とどう関わっているのか、具体的なエピソード、声、思いに、たんねんに光が当てられている、ということです。協同組合は人と人の結びつきであるということを実感させてくれ、読む者に「協同」の意味を深く考えさせてくれます。

加藤章(あきら)さん最期のコンサートを支えた南生協病院緩和ケア病棟、脳性マヒで体に障害のある、[寺本ららさん](#)のオーストラリア留学を支えた「かなめ病院」の実践、「なりたい私を応援する」フィットネスクラブWISH(ウイッシュ)。

なかでも「グループホームなも」は、「自分が年をとったときに安心して利用できる施設が欲しい」との思いから、組合員が「ちゃりんこ(自転車)隊」を結成し、地域を回って築60年をこえる古い民家を見つけて開設するなど、「私が受けたい介護の共同購入」ともいえるような実践です。

南医療生協の成瀬幸雄専務理事の言葉を借りれば「『生協が、やる』のではなく『生協で、やる』」、組合員が生協という仕組みを使って、自分たちの暮らしを良くしていく実践です。本書を多くの方に手に取って読んでいただきたい、「生協って、こんなことができるんだ」という驚きと「協同って、いいねえ!」という共感が広がること、間違いなしではないでしょうか。

さて、南医療生協は、今もチャレンジを続けています。来年には、南生協病院の目の前にある名古屋市所有の土地に、高齢者住宅、精神科診療所、居酒屋などが入った8階建ての複合施設「よってって横丁」の建設が始まります。南医療生協の実践は、組合員だけでない、「市民の協同で作る」まちづくりへと、進化しています。

日本の社会は、高齢化が進む中、一人ぐらし高齢者や、認知症者の増加など、今まで私たちが経験したことがない事態が多数予見されており、「地域包括ケアシステムの構築」が焦眉の課題となっています。日本医療福祉生活協同組合連合会に加盟する111の医療福祉生協は、「地域まるごと健康づくり」をすすめ、医療・福祉・食事・住まい・助け合い分野の事業や活動を通じて、だれもが安心して住み続けられるまちづくりに、とりくんでいます。今後も南医療生協をはじめ、医療福祉生協の活動にご注目ください。

最後になりましたが、生協総研賞表彰事業が、協同組合の価値を多くの人々に伝えていく契機となることを確信しますとともに、西村さんと合同出版のますますのご活躍とご発展を祈念いたします。

本日は、誠におめでとうございます。